

# 学会だより

## お茶の水地理学会準備の推移

談話会を発展させて学会を設立したいとする考えは、昭和56年度の夏休み前の時期の教室会議における教官の話し合いからおこった。その構想は教室職員、卒業生、学生を含む組織であることから、9月26日談話会のあと、卒業生出席者をまじえ、まずこの事について説明と懇談の機会をもった。その結果10月31日「お茶の水地理学会」の発足準備委員会をもつことができた。当日の出席者は21名で、学会の構想、組織、会則案等について趣旨説明が行なわれ、大方の諒承を得た。それに基づいて準備委員を教室から依頼し直ちに準備作業に入ることになった。準備委員会は昭和57年度からの学会発足後の組織構成を想定し、企画、編集、庶務、会計の4委員会をおき連絡調整に総務1名をおくことにした（委員構成については別に掲げる）。これまでに企画委員会は1月23日、編集委員会は12月21日、1月30日、2月22日、庶務委員会

は12月18日、1月22日、会計委員会は1月23日にそれぞれ開催された。これらの総括的取り運びは教室会議に付随して適時に行われている。総会開催日（5月15日）のとりきめ、「お茶の水地理第23号」の編集、名簿の編集、経理の方針など学会活動に必要な作業は、上記の準備委員会諸委員会によってすすめられている。準備委員会の構成は次のとおりである。

総務 式正英

企画 浅海重夫・井内昇・瀬戸玲子・岡田久美子・岡崎セツ子・滝沢由美子・村松晶子

編集 式正英・三上岳彦・金子晶子・太田晴子・中島直子、他に学生6人

会計 内藤博夫・見山久子・式好子・厚井和子・武田むつみ

庶務 井内昇・見山久子・青島朋子・渡辺真紀子

## 談話会の開催

1981年の談話会は次のように行われた。

1月31日（第41回）「IGC東京大会の運営に参加して」浅海重夫・式正英ほか

5月16日（第42回）「オランダ滞在2年間の見聞」矢口文子（23回生）

7月4日（第43回）「台湾紀行」式正英

9月26日（第44回）「スペインの2つの調査からイビサ島とセヴィリアについて」栗原尚子（16回生）

12月5日（第45回）「イギリスの都市一現状と問題点一」井内昇

1982年1月23日（第46回）「ヨーロッパ一点を結んで一」金子晶子（8回生）・武田むつみ（20回生）

## 会員消息

この春で30回を数える卒業生400余名全員の消息などはとても詳らかではないが、この1年間の動静のごく一部を書いてみたい。

56年春卒業の15名中4名が進学したが、加藤弥生・平松颯子の2人は本学大学院へ、有賀友子、木全令子の2人は開学以来はじめて東北大学大学院へ進学した。東北大学は戦前から女性に門戸を

開いており、本学とは縁が深いところである。3回生の佐藤由子さんは明治大学の大学院に合格し、親子程年令差のある学生にまじって頑張っている。また一昨年オランダから帰国した23回生の矢口文子さんは、筑波大学の教育学系大学院へ合格し、昨年卒の室伏朝子さんも今年奈良女子大学の大学院へ合格した。これもまたはじめてのことである。

今年の卒業生は、菊池美千世・高橋圭子・田村順子・宮野佳子の4名が本学大学院へ進学した。修士修了者は原裕子・渡辺真紀子の2名で、この中渡辺真紀子さん(27回生)は本学人間文化研究科博士課程に進学した。博士課程在学中の栗原武美子さんはカナダ政府の奨学生として昨年9月からブリティッシュコロンビア大学に留学中であり、23回生の八村圭子さんは2年半にわたる留学を終え、カリフォルニア州立大学(フレズノ)の地理学修士号をとってこの2月に帰国した。また中島直子さん(25回生)は人間文化研究科(博士課程)助手(4月1日付)に採用された。国際化時代とあって海外に居住する卒業生も少なくない。中には前記の方々のように単身留学というケースもあるが、その多くは夫君の海外勤務又は留学に伴うものである。従ってその行先もアメリカ・イギリス・ドイツなどの先進国が多いが、中には11回生の向後紀代美さんのように、2年余にわたるクウェートでの滞在を終えて最近帰国した人もある。彼女自身この稀有な体験を生かして、イエーメンの文化地理について調査を行ったので、今後東大

教養学部の研究生として、このあたりのことをまとめるといふ。

最も特筆すべきことは57年4月から16回生の栗原尚子さんが母校のスタッフに迎えられたことである。栗原さんは昭和43年卒業後直ちに一橋大学社会学部の助手となり、以来14年研鑽と努力を重ねて来た。メキシコ大学へ奨学生として留学し、勤務の傍ら法政大学の修士課程・博士課程に学んだ。また文部省科学研究費海外学術調査隊の一員として、地中海イビサ島及びアンダルシアの現地調査に参加するなど、母校の教育たるにふさわしい業績をあげて来た。この教室に学ぶ多くの学生の目標ができたわけで、今後栗原さんに続く人が数多く出ることを期待している。その他ベターホーム協会で活躍の傍ら10年来盲人のためにテープ録音の朗読奏仕を続けている3回生の一瀬昌子さん。仲間と語らって旅の雑誌“伊勢・志摩”を出版している11回生の乾淳子さんなど、今後も活躍の期待される人々である。次号から会員の方々の業績や動静など御紹介して行きたいと思うので、会宛どしどし御連絡頂きたい。(貝山久子)

### 地理学教室動向

昭和56年4月より、教室主任が浅海重夫教授から式正英教授に交代した。同じく4月より井内昇教授が大学院博士課程(人間文化研究科)を担当することになり、本教室の同課程担当教官は浅海・式両教授を合わせ3名となった。56年度における各教官の主要な学内委員担当は次の通りである。浅海教官(建築委員長)、式教官(予算委員)、井内教官(入試委員)、内藤教官(電算機室運営委員)、三上教官(学生委員)。

昭和56年4月、斎藤功助教授が筑波大学に転任となったが、引き続き57年3月までは本学の併任教官として教育指導の一部を担当した。57年4月には、後任の専任講師として、一橋大学社会学部助手の栗原尚子氏が着任し、経済地理学、外国地誌、一般教育地理学などを担当することになった。同4月より、三上岳彦講師は助教教授に昇任した。

57年3月をもって、貝山久子助手が勇退し、4

月からは後任の助手として武田むつみ氏が着任した。貝山教官には、35年間にわたり本教室の教育・研究活動に御助力頂いた。本欄を借りて厚く御礼申し上げたい。

57年4月より、地理学科のカリキュラムが部分改訂された(57年度新入生より適用)。従来、地形学、地質学、気候学など自然地理関係の科目と経済地理学は4単位必修であったが、これらはいずれも2単位必修、2単位選択となり、選択科目が増えることになった。また、地図学4単位も、講義2単位、演習1単位に改訂されたほか、科目の新設、廃止、名称変更などがあった。

第24回IGC(国際地理学会議)の展示図書(1,810点)が本学に寄贈され、本教室が保管・閲覧事務にあたることになった。図書リストも作成され、全国地理学研究者の利用の便に供される。

本教室専任教官による研究発表と著作活動は次

の通りである。

氏名	発表題目	掲載誌(巻・号・頁), 発表学会など
浅海重夫	<p>国際地理学用語研究委員会 (IGC, コミッショ ン2)</p> <p>自然と人間とのかかわり——土壌地理学の観点 から</p> <p>Geographical Factors Influencing the Population Numbers and Distribution of <i>oncomelanianosophora</i> and the Subsequent Ef- fect on the Control of Schistosomiasis Japo- nica in Japan (N. Nihei, H. Tanakaと共)</p> <p>地形学辞典, 土壌の項.</p>	<p>地理, 26巻, 1号, 67—69頁, 1981年1月</p> <p>沢田清編著, 自然と人間のかかわり, 古今 書院, 81—88頁, 1981年3月</p> <p>Soc. Sci. Med., Vol. 15Dpp. 149—157, 1981.</p> <p>町田貞他編, 地形学辞典, 二宮書店, 1981年7月</p>
式正英	<p>アメリカ合衆国南西部, ベースン・アンド・レン ジ地域にみられるアロヨ・カッチングとパイピ ング</p> <p>夏富士でおきた落石災害</p> <p>講演「山肌に見る自然」</p> <p>地図学入門(I), (II), (III), (IV), (V)</p> <p>講演「山の意外な顔」</p> <p>講演「地形研究の回顧」</p> <p>Some Preconditions for Thinking about Car- tography of Dynamic Environment in Japan</p> <p>講演「山の地質の話」</p> <p>台湾北端部, 野柳岬の隆起波食台上的茸岩</p> <p>書評, H. C. ベラン著: ベランのパノラマ—アル プスとヒマラヤの世界—</p> <p>書評A. バウムガルトナーほか著: 図説百科「山岳 の世界」</p> <p>人物紹介A. ジェルノー (世界の地理学者たち) 翻訳J. A. タック, R. グレニア: カナダに残された バスク人の捕鯨基地</p> <p>地図づくりと地理学の役割</p>	<p>地学雑誌, 90巻, 1号, 口絵写真と解説, 1981年2月</p> <p>日本山岳会々報「山」No. 428, 1—2頁, 1981年2月</p> <p>建設省松本砂防工事事務所, 砂防事業100 周年記念講演会1981年3月19日</p> <p>地理, 26巻, 4号, 6号, 8号, 10号, 12 号1981年4月, 6月, 8月, 10月, 12月</p> <p>日本山岳会科学研究委員会例会, 1981年5 月22日</p> <p>寒冷地形研究会, 1981年7月11日</p> <p>Actes des Symposium de Sendai, Japon (Aôut, 1980) 67—71頁, 1981年9月</p> <p>エーデルワイスクラブ例会, 1981年11月5日</p> <p>地学雑誌, 90巻, 5号, 口絵写真と解説, 1981年10月</p> <p>地学雑誌, 90巻, 5号, 61—62頁, 1981年 10月</p> <p>地学雑誌, 90巻, 5号, 62—63頁, 1981年 10月</p> <p>地理, 26巻, 12号79頁, 1981年12月</p> <p>サイエンス, 12巻, 1号, 96—105頁, 1982 年1月</p> <p>地理, 27巻, 1号, 40—46頁, 1982年1月</p>
井内昇	<p>行政における都市の階層とシステム</p> <p>未来の街づくり</p> <p>広域農山村整備における圏域設定の考え方</p>	<p>総合研究(A)研究成果報告書(代表: 田辺健一) : 日本の都市の階層とシステムの研究 115—121頁, 1981年3月</p> <p>地理26巻, 5号 78—86頁, 1981年5月</p> <p>広域農山村総合整備手法開発調査報告書 (農水省), 3—21頁 1981年3月</p>

	北関東の都市システム	お茶の水女子大学人文科学紀要, 35巻, 1—20頁, 1982年3月
内藤博夫	工場労働者の平均賃金に関する重回帰分析(続報) Employment in Textile Industry in Urban and Rural Areas	日本地理学会2月例会(2月14日) 第1回国際繊維工業地理学会議(10月6日 ～9日, ポーランド・ウツジ大学にて開 催)
斎藤功	栃木県ブナ帯における夏野菜栽培の発展  帝釈山周辺のサンショウウオ漁について  ブナ帯における薬草の栽培と採集 日本におけるブナ材利用の変遷 農業的土地利用の垂直的分化  地域の資料・史料の活用方法	お茶の水女子大学人文科学紀要, 34巻, 1 —26頁, 1981年3月 科研費報告「ブナ帯における生活文化の生 態地理学的研究」(代表市川健夫), 173— 178頁, 1981年3月 同上. 285—299頁 地理, 26巻4号, 47—59頁, 1981年4月 『産業の地域的分析』, 25—41頁, 大明堂, 1981年6月 『社会の主體的・協力的授業』278—286頁, ぎょうせい, 1981年6月
三上岳彦	南半球における気候変動の地域差 南半球における気温変動傾向の地域的差異  都市内部における公園緑地の気候	日本地理学会春季大会, 1981年4月 地理学評論, 54巻, 11号, 660—667頁, 1981年11月 お茶の水女子大学人文科学紀要, 35巻, 21 —36頁, 1982年3月